

読者のみなさん、こんにちは。10月を迎え寒くなりました。お体には十分お気をつけてお過ごしください。さて、今月号は、約10か月の長期留学から帰国し9月から復学した生徒の留学体験記や、9月に開催された清林祭でのランゲージセンターの展示企画や英語劇の様子を写真とともにお届けいたします。



留学生体験記

私は昨年の8月からアメリカのバージニア州に10ヶ月、交換留学生として留学しました。この10ヶ月間を通して、語学力の向上だけでなく、現地の文化にも多く触れることができました。もちろん最初から英語を流暢に話せるわけではなく、多くの苦労や辛い経験がありましたが、最終的にはそれらを乗り越えて留学生生活を存分に楽しむことができました。

私は2歳と4歳の子供がいる家庭にホームステイしました。個人的にはそのホストシスターとブラザーがいたことが自分の語学力に大きく影響を与えたかと思います。一見、小さな子供が使う言葉なんてあまり使えないように思えますが、意外と日常会話で使うような基本的な言葉をよく使っていたので、英語を習得する機会に恵まれました。例えば、車の中でよくマザーがホストブラザーに向かって「Buckle up!」と言っていました。最初は何を言っているのかわからなかったのですが徐々に動きと共にマザーは「シートベルトをきなさい」と言っていることを理解できるようになりました。このように普段私たちが使う英語の教科書には載っていない単語が、現地では当たり前を使うのですごくそのような会話にありがたみを感じました。他にも、子供達と一緒にディズニーの映画を見たり英語の歌を歌ったりして英語の基礎を学びました。

現地の学校では、日本にはない教科がたくさんあり、アメリカならではの授業を受けることができました。特に気に入りの教科は小動物についての授業で、実際にそのクラスではモルモット、うさぎ、ハリネズミ、ネズミ類が飼育されていました。その授業では小動物がかかりやすい病気、正しい持ち方や扱い方、私たち人間が小動物から感染する可能性のある病気について学びました。また、交換留学生の私にとってアメリカ史は必須科目でした。日本で歴史が苦手な私にとって英語を交えたアメリカ史は初め難しく感じましたが、日本とは異なる視点から学ぶことで新鮮さを感じ、いつしか面白く思えるようになりました。アメリカから見た日本の立ち位置や、日本がアメリカとの戦争に負けた後の関わりなど、詳しく知ることができました。この経験を通じて、私は歴史を学ぶ大切さを再認識することができました。(2枚目に続く)



SHS INTERNATIONAL LETTER OCTOBER



私は1年間の学校生活の中で、特に部活動に力を入れました。アメリカではシーズンごとにスポーツが変わるため、チアリーディングとテニスの部活に参加しました。今までダンス経験がなかった私がチアに入部したので、振りつけを覚えるのに必死でした。特に英語が全くわからない状態で応援ソングを歌いながら踊るのはとても大変でした。しかし、周りの友達やコーチが一生懸命丁寧に教えてくれたおかげで初心者の私でもチアの大会にも出場することができました。この大会ではみんなと一生懸命練習して、汗と涙を流したので、素晴らしい思い出になりました。テニスは中学校で軟式テニスをしていたため、試合で活躍することでメンバーやペアの子と親しくなりました。

ここまで素晴らしい留学生活を送っているように思えますが、友達を作るのには苦労しました。部活以外での授業はほとんどシェアメイトと仲良くしていたため、現地の子とのコミュニケーションが少なかったのです。最初は自分から頑張って声をかけていましたがうまく伝わらず、いつの間にか英語を話すのを恐れるようになっていました。最初の2ヶ月はシェアメイトと過ごし、彼女が新しい友達を作るのを見てこのままだといけないと焦りを感じていました。そこで、ヒスパニックが多い学校であることを利用して、英語を第二言語とする彼らにあえて自分から話しかけることでネイティブよりかはゆっくりな英語で少しずつ会話を楽しむようにしました。それからは自分に自信を持って英語を話すことができるようになり、廊下ですれ違う知り合いに「Oh, I love your outfits.」と言ったりして会話の機会を増やしていきました。

最後に、ここまで自分を大きく成長させることができたのは周りの人々の支えがあったからです。この経験を通じて、挑戦することの大切さや異なる文化に触れることで得られる視野の広がりを実感しました。なので、いかに自分が良い環境に恵まれているかを自覚し、感謝の気持ちを忘れずに、結果で恩返しができるような人になりたいです。

(名古屋市黄金中学校出身 H. N)

清林祭 (Seirin Festival)

9/6(金)、7(土)に清林祭が開催されました。今年度は「刻め!この瞬間(とき)を」というテーマでした。新型コロナウイルス感染症の流行があり、清林祭を行えることが当たり前ではないということを実感した今、平穏な日常を過ごせる大切さを再確認しました。時間が経っても、清林祭での一瞬一瞬の記憶が深く記憶に刻まれるようにという思いがテーマには込められているそうです。生徒全員が次の100周年への架け橋となるように活気ある清林祭となりました。

ESS部のステージ企画は英語劇『SING』です。その内容を掲載します。

今年のESS部は、ディズニー映画の“SING”をダイジェスト版で上演しました。15分という限られた時間で、見に来てくださった方に最大限楽しんでもらえるよう、歌のパフォーマンスをメインとした劇をすることに生徒たちが話し合って決めました。パフォーマンスした曲は、Call Me Maybe(Carly Rae Jepsen)、Don't You Worry 'Bout A Thing(Tori Kelly)、Shake It Off(Taylor Swift)の3曲で、バラードやダンスナンバーなど、幅広い表現を見ていただける選曲にしました。キャスト、裏方ともに過半数が1年生という状況の中、探り探りで始まった準備でしたが、一人ひとりが意見を出し合いまた創意工夫を重ね、夏休みから練習を行ってきました。うまくいかないときは、2・3年生の先輩にアドバイスをもらう姿がありました。私も生徒全員がこの舞台を成功させたいという気持ちが日に日に強くなっていく姿を目の当たりにし、大変うれしく思いました。本番では少しハプニングもありましたが、生徒たちは一体となりひとつの劇を作り上げることができました。当日見に来てくださった皆様、改めてありがとうございました!

ESS部 顧問



SHS INTERNATIONAL LETTER OCTOBER



ランゲージセンター主催の展示企画のテーマは、「English Games wish Us」です。
楽しみながら英語を学ぶことができる 6 つのゲームが用意されました。多くの生徒や保護者、近隣中学生が訪れ、AET の先生方とゲームを通じて楽しく交流している姿を見ることができました。楽しみながら英語に触れることで多くの方がより英語に興味を持つことができたように感じました。来年度も文化祭で開催予定ですので、英語に興味のある方はぜひお越しください。



Thank you for reading to the end. Stay tuned for our next month's issue !